

## 2008 年を展望するポイント

### 「 アジア石炭市場の動向 」

戦略・産業ユニット 石炭グループ・研究主幹 佐川 篤男

アジアの石炭市場では、大幅な価格高騰が起きている。2007 年夏以降、再び上昇に転じた一般炭のスポット価格は、今年に入り 100 ドル/トンに近づいている(下図参照)。一方、ターム契約が主流の原料炭も需給逼迫を背景に高騰しており、05 年度の 125 ドル/トン(日本の高品位強粘結炭の年度契約価格)を上回る価格で 08 年の契約がなされる可能性が高い。今年および中期的な石炭価格を展望する際は、豪州や中国などの動向が、重要なポイントとなる。

豪州一般炭スポット価格の推移



豪州では、価格低迷期に輸出インフラに対する投資が遅れ、需要に見合う輸送体制になっておらず、鉄道や港の能力が不足している。このため主要港であるニューカッスル港、ハイポイント港等の石炭積出し基地では、滞船問題が発生している。04 年に石炭の供給不足が起きて以降、豪州では新規炭鉱の建設と既存炭鉱の拡張により

### 豪州一般炭スポット価格の推移

現状の輸出需要に見合う生産能力は保有しているが、生産量は輸出インフラの能力の制約を受けている。輸出インフラの整備には時間がかかり、輸出需要に追いつくには 2、3 年を要するため、08 年も滞船対策として輸出量の調整が決定されている。

また中国では、04 年以降、旺盛な国内需要により石炭輸出が減少する一方、輸入が増加してい

る。07 年前半は輸入量が輸出を上回っていたが、後半に入りアジア市場で石炭価格と海上運賃が高騰したため、輸入量が減少し輸出が増加に転じ、年間では純輸入国にはならなかった。しかし、08 年は純輸入国になる可能性が高いと見られている。中国の輸入量は、南東部沿海地域を中心に拡大傾向を続けるが、その数量は内外価格差（国内炭価格とアジア市場価格）によって決定される。また輸出量は、中国の国内需給状況と内外価格差によって大きな影響を受けるだろう。

さらに韓国、台湾、インド、東南アジア諸国で石炭輸入の拡大が見込まれるため、新規の供給力としてロシアの石炭会社 SUEK の極東積出港（ムチカ湾）が完成するが、豪州や中国など供給国側での問題から石炭市場のタイト感は続くと思われる。07 年は、豪州のサウスウェールズ州を襲った暴風雨、インドネシアの雨期明けの遅れや集中豪雨の影響で一般炭スポット価格は上昇した。08 年にも同様の自然災害で供給支障が起きる可能性があることを前提に、石炭の調達計画を立てる必要がある。なお、08 年 1 月下旬に入り、豪州のクィーズランド州では豪雨の影響で不可抗力条項が発動されている。

お問い合わせ先 : [report@tky.ieej.or.jp](mailto:report@tky.ieej.or.jp)